

# ○八尾地域タウンミーティング議事録

日 時：令和7年11月22日（土）

午前10時から11時30分

場 所：八尾コミュニティセンター

出席者：41人

## テーマ1 食中毒の現状と予防

<主な説明事項>

- 1 食中毒とは
- 2 原因物質について
- 3 本市で発生した食中毒
- 4 予防に関する取組

### 【福祉保健部の説明に対する質問】

・カレーの作り置きについて、再加熱してもウエルシュ菌は生きると資料に記載してありますが、説明の中では、しっかり加熱しましょうというお話がありました。どうすれば、この菌は死滅するのでしょうか。

(保健所生活衛生課長)

ウエルシュ菌については、熱では死滅しにくく、カレー等は早めに小分けにして冷ましていただき、何よりも菌を増殖させないことが大事です。その他の菌も含めまして、食べる際には再加熱し、中心温度を75度以上、1分以上加熱していただくことをお願いしています。再加熱の時に入ってしまったウエルシュ菌は、死滅させることはできないのですが、その前段階としてまず増殖させないことが大事です。

完全に取り除くことは難しいと思いますが、増殖したものを口に入れないことを大切にしていただきたいと思っております。

・そもそもウエルシュ菌は、どこから鍋の中に入って増殖していくのですか。

(保健所生活衛生課長)

大概の食中毒の原因になる細菌は、土中であったり水中であったり様々なところにあり、我々の体に付着している場合もあります。どこからの侵入経路を防げば絶対に大丈夫ですということはないので、物理的に洗い流すということで、手洗いをしっかりしていただくこと等により、入ってきたもの増やさないことに着目していただけたらと考えております。

・カレーライスをよく作りますが、温めたり冷やしたりを繰り返すとどんどん美味しくなっていくので好きです。食中毒になる場合、ウエルシュ菌によるものは件数だけ見るとそれほど多くないように感じますが、症状はどれくらい重篤になるのか教えてください。

(保健所生活衛生課長)

ウエルシュ菌を原因とする食中毒については、重症化する例はほとんど聞いておりませんが、やはり細心の注意を払っていただきたいと思います。症状は、思ったほど発熱がない場合等、日頃の体調不良と区別がつかないかもしれません、調理の工程等でご注意いただくのが良いと思います。鍋を使って大量に作るようなことが考えられますので、もし催事ごと等で大量に作るときは、今日説明させていただいた内容についてご注意いただけたらと思います。

・食中毒の予防に関して、温める、冷凍するといった人の注意によることが多いよ

うですが、世の中の技術革新によって、例えばアニサキスの場合ブラックライト等で照らせば発見できるとか、多くの食中毒菌をDNA検査するキットも発売されていると思います。富山市内の学校や福祉施設といった大規模調理施設においては、人の力ではなく、機械、装置、試薬といった技術的な革新はあるのでしょうか。

(保健所生活衛生課長)

富山市の給食施設、大規模な調理施設については、富山市食品衛生監視指導計画に基づいて、監視や巡回指導を行っていますが、今のところ、市内施設でそういうハイテク機器等を使って検査していらっしゃるところは少ないです。アニサキスのブラックライトについては、お魚を扱われる飲食店等では、心配で使っているところがあります。

## テーマ2 社会インフラマネジメントについて

<主な説明事項>

- 1 社会インフラの現状と課題
- 2 社会インフラの今後の対応

### 【建設部の説明に対する質問】

・小学校等の通学路の除雪の基準について、雪が20cm降らないと除雪の対応をしていただけないのでしょうか。現状を見ていると、小学校の低学年にとっては、20cmまでの積雪がなくても、除雪していないとかなり厳しいのではないかと思われます。今後検討はされないのでしょうか。

(土木事務所建設課長)

現在、富山市が管理する道路の中で、車道と歩道という2つの大きな区分があり

ます。歩道の除雪につきましては、除雪出動の基準を積雪20cmとしています。富山市におきましては、冬場は自転車利用がないこと、基本的には長靴を履いていただくことを前提として、歩道については積雪20cmと定めさせてもらっております。ただ、ご指摘の通り、通学路で小さなお子さんも通ることから、20cmという基準はありますが、現場を見ながら必要に応じて除雪の対応を検討していきたいと考えております。

・諏訪町本通り線等では、石畳や木製の街路灯等の整備をしていただき、非常に綺麗になっているのですが、諏訪町に入る手前に公衆トイレがあります。ニューヨークタイムズに選ばれた八尾町の中で、一番人気のある諏訪町の入口の公衆トイレは、いまだに和式便器のトイレになっています。男性用トイレは1ヶ所しかありません。女性用トイレは何ヶ所あるのか分かりませんが。諏訪町本通り線等の景観のように、綺麗な公衆トイレにしていただけないでしょうか。八尾のトイレで綺麗のは、八尾駅前だけだと思います。トイレは下新町にもあります。非常に汚くて見られません。トイレの整備について特にお願いしたいです。

(市長)

今おっしゃったところは、我々も検討、議論をしているところです。諏訪町の入口にあるトイレや、曳山会館横のトイレをはじめ、順次整備していきたいということで計画しております。あとは予算ですので、順次進めてまいりたいと思っています。またご意見をお聞かせください。

①先日、杉原小学校前のアスファルトに小さな穴が空いており、40cmほどの深さになっていました。朝報告したところ、その日の夕方までには全部綺麗に直していました。早くことができました。素晴らしい対応だと思います。ありがとうございました。  
②高熊橋は単なる補修の内容だと思っていましたが、諏訪町は、景観形成の向上に

資するという目的を持っており、補修しながら整備を行うという内容だと思います。  
これから投資に関しては、補修あるいはメンテナンスをしながら整備も行うとい  
うような、一石二鳥の方法で検討していただければ効果的ではないかと思いました。  
③富山市にはたくさんの公園がありますが、うちの近くには人がおらず、子どもの  
声も聞こえません。多分、富山市内の8割ぐらいの公園は利用されていないのではないか  
と思います。原因を考えてみると、高度経済成長期における整備は「点」の  
整備だったと思います。建物や公園を「点」で作ると、一時は賑わいますが、その  
うちに忘れ去られてしまうと思います。富山のような車社会では、駐車場も必要で  
すが、人が何を使って移動するのか、どういった種類の人がどこからやってくるの  
かという人の動きを考え、その線上に効果的に施設を作ることが大事だと思います。  
「点」ではなく「線」として作った場合、人々が動き回ることによって経済の活性  
化、地域の振興、地域の再生が生まれると思います。人がどのように使うかという  
ソフトな面からフィードバックしながらインフラを整備すべきだと思うのですが、  
どのようにお考えでしょうか。

(市長)

おっしゃった通り、大変示唆に富んだご意見をありがとうございました。やはり昔と今は全く違い、人口の構造も違っていますし、本格的な人口減少社会に入りましたので、「線」あるいはもう少し広く「面」で捉え、効率的に動線上に公共インフラを有効に配置していく考え方は非常に大事です。

新たな都市マスタープランを来年からスタートするために作成していますので、今おっしゃったような観点を入れ込みながら作成する方向に打ち出したいと思い、計画策定中です。新しく作るにしてもリニューアルするにしても、人々が利用しやすい場所に、統合化や複合化していく等、公園に限らず様々な公共施設がそのようになっていく方向だと思いますので、しっかりと進めてまいりたいと思います。

・高熊橋の補修工事は、いつ頃まで工事期間がかかるのか教えていただきたいです。  
通行止めになるときが何回もあると思いますが、通行止めの看板は小さい気がしますし、通行止め解除という表示も見落としやすいサイズになっています。私も2回ほど通れるかと思って行ったら、都市計画道路から高熊まで1~2km程度でしょうか、そこまで行って引き返したことがあります。同じように、橋の上で工事をしているため引き返す車を何台か見受けました。工事期間が大変長い中で、橋の上にトラックがいて通行止めしている状況が多くあります。通行される方は結構多いと思うので、周知について今後考えていただければありがとうございます。

(建設部長)

高熊橋につきましては、まだ工事が続きますので、スケジュール等を地元の皆さんにまた周知してまいりたいと思います。工事看板等が分かりにくいという点につきましても改善に努めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

### 【その他意見交換】

・八尾スポーツアリーナは、今日も杉原地区の行事で使わせていただいているが、土日あたりは色々な試合等でお客様に多く使用されています。トイレについては、ウォシュレットも付いていませんし、便器に暖房機能もありません。この状況が何十年も続いています。公共の建物を見てみると、何十年も設備がずっと古いままで、旧式のトイレ等のままといったところが、あちこちで見受けられます。一般住民からすると、生活の質も上がってきていますから、色々な面で快適性や清潔性を求めると思います。そういう面を考慮していただき、設備改修についてバージョンアップ、アップデートに努めていただければと思います。

(市長)

今のお話はとても大事な話で、まさに生活の質に関わる部分です。ご自宅ではもうほとんど洋式でウォシュレットを使用するのが標準になってきました。公共の場所がそうなっていないのは、非常にまずいということを富山市もしっかり受けとめたいと思います。八尾の場合も公衆トイレがたくさんありますし、トイレの近代化について、持ち帰って検討したいと思います。

・市の施策には直接関係ないかもしれません、富山県で高校再編の話が進んでおります。地元には、八尾高校という100年を超える伝統ある学校もあります。富山市は県内でも高校の数が1番多いと思うので、その中のいくつかは対象になると思しますし、報道等では、かなりの大規模校をいくつかの学校に集約する形でどこかに作るという話もあるようです。それも富山市のどこかになると考えています。市としてあるいは市長さんとして、県の高校再編の動きについて、どのように考えておられるかお聞かせいただければと思います。

(市長)

今おっしゃったように、県は相当のスピードで進めております。大規模校があり、標準校があり、小規模校をいくつか残すというような方針が示されました。高校の相当数が富山市に集中しているというのも現実であります。しっかりと富山市の考え方は、県知事とは申し入れや意見交換をさせていただいております。

その中で、八尾高校については、高山線沿線上にある非常に大事な普通科校であり、伝統芸能を継承している高校でもありますから、残すべき高校の1つではないかということを強く要望しています。未来に向けて、例えばおわらのような大きな伝統行事も含めて、地域の獅子舞、稚児舞、お神輿といったものを残していくのは非常に大事なことであり、学校教育の場で実践していくというのもまた大事です。高校は、人数をある程度まとめて、部活動やクラス替え等に色々対応していくとい

うことも大事で大賛成ですが、一方で、規模に関わらず、伝統芸能や地域を愛する心を育んでいくことも高校時代に大事ではないかと思っていますので、物を言うときはしっかり言つていきたいと思っています。

・富山市内でもこの近辺でも、空き家、空き地、跡地、今後老朽化するであろう公共施設が多くあり、おそらく10年以内にもっと大きな問題になってくると思います。地域の皆さんも、どうすればいいか迷っているというところが多いです。新しいものに作り変えようというときの目標は、それを起爆剤として地域を活性化できるかということだと思います。他のところで、空き家、空き地、跡地等の対策したときの失敗事例について、まず学ぶべきだと思います。失敗しない方向性を探りながら、地域振興、地域活性化、地域再生に活かしていくべきだと思いますが、そのためには、ある一定の指標がいると思います。富山市の方では、成功事例だけではなく失敗例も含めて、こんなふうに有効活用して地域をもっと盛り上げていきましょうといった、モデルケースを示すような時期が来ているのではないかと思いますが、いかかでしょうか。

(市長)

空き地、空き家、跡地、未利用地は、今後さらに増えると思っています。確かに、どのように有効活用化していくかによって、地域の活性化が図られるか、そうではないかという、大きな分岐点にかかることがあります。最近は、公共交通沿線でも、空き地、空き家、未利用地は、民地や公共施設の土地に関わらず、急増しています。どのようにリニューアルしていくかということは非常に大事なことだと思います。新しい都市マスタープランについても、市の負の財産ではなく、既存ストック、資産とみなして、有効活用していくこうという前向きな観点から、利用計画を行っていこうと進めています。今まででは、公共交通沿線に新築するものに補助金を出していましたが、今度は、空き家をリニューアルしたり空き地を利用したりす

るところに、例えば補助金を出す等、方法を変えていくといったことです。公共施設の跡地については、慎重に、ご意見もお聞きしながら、地域にとってあるいは富山市にとって有効なものにしていきたいと思います。キーとなるのは、民間活力をどう入れていくかということであり、非常に大きな課題であります。民間事業者の方々と、空き地、空き家、未利用地をどのように活用していくかということを、意思疎通しながら進めてまいりたいと思います。

富山市では、部局横断のタスクフォースで空き家対策チームを作り、成功事例や失敗事例等を含めて、今おっしゃったようなことを検討しています。何らかの方法で、市民の皆さんに協力していただくという方向を出しています。市民の皆さんにお披露目できる日が近々来ると思いますので、しっかり打ち出していきたいと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています。（広報課）